



よりよい社会をつくるために

東山中学校 二年 坂本 博伸

僕は、人権学習を通して、あつていい「ちがいが」とあつてはいけな「ちがいが」を見極めることが大切だということ学びました。あつてはいけな「ちがいが」とは、肌の色や宗教などのちがいの上にちがいをつくることで、差別にもつながら絶対ないけないものです。

しかし、残念なことに、あつてはいけな「ちがいが」は世の中にたくさんあります。最近では、ある黒人の男性が、不審人物に外見が似ているという理由で、調べられることなく殺されたり、乱暴されたりする事件があつてを絶ちません。その事件を見て、なぜ肌の色が違うだけでそのような事件が起るのかと思いました。「黒人だから」と決めつけて行動していることに對して怒りや悲しみに胸がしめつけられます。今、アメリカを中心各国でのデモが行われており、多くの人が人種差別に對して抗議しています。その中でも、先日、テニスの大坂なおみ選手が黒人に對する差別によつ

て亡くなられた方の名前を書いたマスクをつけて大会に臨み、みごと優勝されました。それを見て、黒人に對する差別をなくしたいというとても強い気持ちや行動に自分も勇気をもらいました。あつてはいけな「ちがいが」をいけな「ちがいが」と思いました。

僕は、これから多くの人と出会い共に助け合いながら生活していきます。人権学習で学んだことをきっかけに、もし、周りであつてはいけな「ちがいが」が行われていたら、おかしいということに気付ける人になりたいです。そして、周りに流されず、自分で正しい判断ができる人になりたいです。一人ひとりが考え行動できるとで夢や希望を大切に笑顔あふれる社会になります。そんな社会をつくっていく一員として生活していきたいです。

先生のコメント

「先生のコメント」
人権学習「ちがいのちがいが」を通して、感じ・考え・学んだことが、日常生活の中の気づきにつながっていますね。世の中の出来事にただ流されるのではなく、世界で起っている出来事に関心を持ち、考えるという行為は、とても大切なことだと思います。それは、自分の身近なことにも、注意深く関心を向けることにつながります。何か困っている誰かに気づき、声をかけ、話を聞くだけでも相手を笑顔にすることができるとも思いません。相手を思っている。一人ひとりの優しい気持ちがあふれると、差別や偏見のない社会になっていくのだと思います。私たち一人ひとりの小さな気づきと優しい行いで、よりよい社会を作っていきます。

あすばる男女共同参画フォーラム2020

オンラインで開催します。
■日時 11月28日(土)午後1時～
■内容 黒崎伸子氏(外科医・国境なき医師団日本元会長・日本BPPW連合会広報委員長)による講演など
※視聴方法など詳しくは、あすばるホームページまたは問い合わせください。
<https://www.asubaru.or.jp/>
■福岡県男女共同参画センター「あすばる」
(TEL092・584・1261)



11月12日～18日は「女性の権利強化週間」です

夫・パートナーからの暴力、職場でのセクハラ、ストーカーなど女性に関する人権問題の相談を、法務局職員と人権擁護委員が無料で受け付けます。どんなに小さなことでも、一人で悩まず相談ください。
■日程 ①11月12日(木)、13日(金)、16日(月)～18日(水)②11月14日(土)、15日(日)
■時間 ①午前8時30分～午後7時②午前10時～午後5時
■相談電話番号 0570・070・810
※強化週間以外でも、平日の月曜から金曜の午前8時30分～午後5時15分まで、電話相談を受け付けています。
※秘密厳守
■福岡法務局人権擁護部
(TEL092・739・4151)

のり養殖業 伊藤 由加里さん (46歳)

「この地域ならではの特産品である、『福岡有明のり』の生産に携われることは、この仕事の魅力だと思います」
以前は美容師として働いていた伊藤さん。結婚を機に、夫の家業であるのり養殖業を手伝うようになり、夫婦でのりの生産に励んでいる。
苦勞の末に待っているやりがいのり養殖に携わるようになって、14年。知識と経験がゼロからのスタートで、大変だったと振り返る。
「天候やのりの状況に合わせながら作業をするため、睡眠や食事の時間が不規則になります。夜中から海に出ることもありますが、自分たちが育てたのりを『おいしい』と言ってもらえると嬉しのですし、やりがいになっています」

体調管理を万全に

のりの収穫に向け、3月頃から準備を重ね、12月から翌年の2月末頃まで収穫が続く。1年間を通しての作業になるので、体調管理を心がけているとのこと。
「海での作業は1人ではできません。どちらか1人でも休んでしまうと収穫に影響してしまうので、体が資本ということをお忘れないようにしています」

頼れる先輩たちとの出会いに感謝

「子どもが小さい頃は、一緒にいたくても海に行かないといけなかったので大変でした」
心身ともに大変だったとき、伊藤さんを支えてくれたのは、同業の女性の先輩たち。同じような悩みを持っていた先輩に相談に乗ってもらい、アドバイスをもらった。
「この仕事を始めた頃はとても不安でしたが、周りには元気で優しい先輩が多く、本当に助かりました。この仕事を続けてきたからこそ、出会うことができた人々への感謝を忘れず、よりおいしい『福岡有明のり』を作れるように頑張ります」
晴れやかな笑顔で語ってくれた。



カキ殻に培養したのりの胞子を網に種付けする準備



いとう ゆかり
のり養殖に加え、農業も営む。出身は大牟田市。高田町黒崎開。【みやまにひとこと】「福岡有明のり」のほかにもおいしい特産品が多いことが自慢できるところです。

みやま文芸

真清水俳句会

秋空に赤い昇開橋上る

石榴の実破れて美しき宝石が

至仏山黄色に染まり尾瀬の秋

血庄も心拍数も秋に入る

吊橋の中程渡り片時雨

省略の家事にあやかる紅葉狩

- 宮地 末子
- 森田 蓉子
- 梅野 博山
- 紙田 幻草
- 樺島美代子
- 平井 和子

